

NUAL (ニューアル) は Nagoya University Alumni Association の略称です。



上段左：第3回名古屋大学同窓会サミット、上段右：名古屋大学全学同窓会岐阜支部設立総会・交流会
下段：第60回名大祭

Upper Left: The 3rd Summit Meeting of NUAL Associations, Upper Right: An Inaugural General Meeting of the Gifu Branch of Nagoya University Alumni Association, Bottom: The 60th Nagoya University Festival (Meidai-Sai)

Contents

特集1 国内4番目の岐阜支部が設立されました・・2
Gifu Branch established as the 4th domestic branch

特集2 第3回名古屋大学同窓会サミット報告・・4
Report on the 3rd Summit Meeting of NUAL Associations

活躍する会員たち・・・・・6
NUAL People in Action

同窓会ニュース・・・・・10
NUAL News

事務局からのお知らせ・・・・・16
From the NUAL Office

令和元年6月に、国内4番目となる岐阜支部が設立されました。特集では、その経緯や設立総会の様子と、第3回名古屋大学同窓会サミットの模様をご紹介します。活躍する会員たちのコーナーでは、サイバーエージェントの高野さん、キャス・キャピタルの川村さんにお話いただきました。

This June, our 4th domestic branch, the Gifu Branch, was established. In this edition's special features, we take a look at how this came about including the function of the Inaugural General Meeting, as well as events at the 3rd Summit Meeting of NUAL Associations. In NUAL People in Action, we hear from Dr. Takano in CyberAgent, Inc. and Mr. Kawamura in CAS Capital, Inc.

国内4番目の岐阜支部が設立されました

Gifu Branch established as the 4th domestic branch

名古屋大学全学同窓会岐阜支部設立委員(幹事)
名古屋大学全学同窓会副会長
伊藤 義人



1. はじめに

令和元年6月29日(土)の17時から、ホテルグランヴェール岐山(岐阜市)で、名古屋大学全学同窓会岐阜支部の設立総会・交流会が開催されました。参加者は、約100名と多く、文系と理系のほとんど全ての部局からの卒業生が集まり、松尾総長にもご参加いただき大変盛況な会となりました。

2. 設立の前提条件

岐阜支部の設立については、2010年代の初めに、それを希望する声が上がっていました。私が代表幹事の頃でしたが、いくつかの課題があるという回答をしました。すなわち、1) 全学同窓会の本部に近すぎる(岐阜駅から名古屋駅まで20分)。岐阜の卒業生もホームカミングデーなどの全学同窓会の本部行事に容易に参加できる。2) 支部としての適当な規模になり、継続性は保たれるか。3) 支部を運営する組織をどう作り、支部認定の手続きはどうするか。などでした。

全学同窓会は、これまで関東支部、遠州会、関西支部の3つの国内支部と15の海外支部を作ってきました。全学同窓会は平成14年10月に設立され、その翌年の平成15年3月には関東支部(支部長:丹羽宇一郎副会長)、その年の11月には、遠州会(支部長:南方陽氏)を支部として認定しました。遠州会そのものは、平成8年に浜松近辺の卒業生を中心に発足していました。発足時には500名近い卒業生が対象で、毎年、総会や交流会を開催し70名~80名の人達が集まっています。関西支部(支部長:藤井眞澄氏)は、翌年の平成16年11月に発足し、毎年総会を開催しています。関東支部と関西支部は、同窓会本部が直接関与して設立されました。

関西支部が設立されてから15年がたち、岐阜支部は、支部の人たちを中心とした活動によって従来とは全く異なる方式で設立されました。

3. 設立過程

平成28年4月に、私は名古屋大学から国立岐阜工業高等専門学校に異動しました。2年間は名古屋大学の招へい教員もしていました。平成30年に入り、周辺から再度岐阜支部の立ち上げは出来ないかという要請がありました。私も岐阜支

部会員の対象者であり、環境整備を依頼されました。

全学同窓会の代表幹事は、和田先生に代わっていただき、私は同窓会本部事務を補佐する副会長になっていました。同窓会本部事務とも相談して、岐阜支部設立の課題を検討しました。まず、全学同窓会から大学へ移管した卒業生等電子名簿に登録されている卒業生・修了生の中で、岐阜支部の対象になる人数を出してもらいました。岐阜に在住または在勤、あるいはその経験者という項目で検索してもらった結果、約8000名が対象になることが分かりました。卒業生等電子名簿に登録されていない人もあり、岐阜支部は、多分1万人程度が対象になることが分かりました。規模としては、支部設立に全く問題がないことが分かりました。

次に手続きですが、この卒業生等電子名簿を設立のために利用しようとするれば、全学同窓会による支部認定が必要という大学側の回答でした。和田代表幹事と相談して、まず支部設立手順の申合せを幹事会で作ってもらうことにしました。

一方、周辺に声をかけて、第1回の設立委員会を平成31年1月13日に6名で開催しました。事務局長の秋山晶則先生(岐阜聖徳学園大学教育学部長)、西村今日子副会長(森松工業株式会社取締役)、杉山寛行先生(岐阜市立女子短期大学長)、太田裕之氏(十六銀行取締役専務執行役員(当時))と私です。ここで、設立趣意書、支部内規および総会案内を作りました。また、小笠原文雄氏(小笠原内科・岐阜在宅ケアクリニック理事長)にも設立委員会に入ってもらい、支部長候補になってもらうことになりました。

平成31年2月8日に開催された、全学同窓会の幹事会で、まず、「名古屋大学全学同窓会国内支部設立に係る申合せ」が決められました。その後、この申合せに従って、設立委員会で作成した岐阜支部の設立趣意書、支部内規(案)および設立委員会委員名簿の説明をして、支部認定の承認をもらいました。

その後、全学同窓会のHPに総会案内を掲載してもらうとともに、各部局・学科同窓会に岐阜支部の幹事や協力者のリストを出してもらうように依頼しました。複数の同窓会から、紹介があり、最終的に設立委員会のメンバーに4名の部局同窓会からの紹介者を追加して、10名で幹事会を構成することになりました。設立総会の案内は、E-mailと口コミでも行いました。設立委員会は、この後2回開催して、設立総会の手順などを相談しました。

4. 設立総会

設立総会は、令和元年6月29日(土)17時から、ホテルグランヴェール岐山で開催されました。11テーブルを使った着席

形式で行いました。第1部で、総会を行い、その直ぐ後で交流会を行いました。

司会は、和服姿の西村副会長によって行われ、最初に、本文の2. と3. で述べたような岐阜支部設立の経緯を私がスライドを使って説明しました。

その後、秋山事務局長によって、支部内規と支部役員(幹事)の説明があり、それらが正式に承認され、岐阜支部は立ち上がりました。小笠原支部長や秋山事務局長を始めとした、支部幹事の簡単な自己紹介があり、総会は終了しました。

5. 交流会

交流会の冒頭で、小笠原支部長の挨拶がありました。懇親だけでなく、大学の役に立つ岐阜支部としたいというお話がありました。

その後、松尾総長によって、スライドを使って「新しい国立大学像を目指す名古屋大学の挑戦 NU-PRACTISSと東海国立大学機構」と題して、名古屋大学の現状などの詳しい説明がありました。令和2年4月に設立される東海国立大学機構の下で運営される名古屋大学と岐阜大学が何を目指すかという詳しい説明がありました。参加者に変大好評でした。

太田会計幹事の音頭で、乾杯がされ、懇談・会食が始まりました。少したって、遠州会支部長の南方陽氏と関東支部事務局長の岸徹氏による挨拶がありました。両支部の特徴と支部運営のノウハウの助言がありました。

豊田章一郎全学同窓会会長、佐々木毅学士会理事長、丹羽宇一郎関東支部長などからの祝電の披露がありました。

この後、松尾総長と小笠原支部長が、各テーブルを回られて、参加者とのスナップ写真を撮りました。



小笠原文雄支部長の挨拶



スライドを使って説明される松尾総長



集合写真 (A - F テーブル)



集合写真 (A, G - K テーブル)

交流会の終わり近くで、松尾総長によって、5名が抽選で選ばれ、名大饅頭の賞品を小笠原支部長が渡し、選ばれた人達から簡単な挨拶がありました。

参加者が多かったので集合写真は2回に分けて撮りました。最後に、内山文雄幹事(キタン会理事・キタン会大垣支部長)による閉会の挨拶が行われ盛会の内に交流会は終了しました。資料を入れた封筒には、名古屋大学グッズのボールペンも入れてあり、アンケートを書いてもらいました。

閉会後も、全学同窓会旗の周辺で、総長や支部長と一緒に写真を撮る人が多くいました。

6. 今後の活動

集めたアンケートによれば、岐阜支部設立や交流会は大変好評でした。ただし、会費を1万円としたため、費用を差し引いた残金は、岐阜支部の運営費に使わせていただくという案内をあらかじめ出していましたが、それでも少し高いという感想が出ました。

各国内支部の総会には、大学からは総長が、全学同窓会本部からは、代表幹事などがずっと参加しています。今後、4つに増えた国内支部でも、これらが継続されることを希望します。

今後、毎年の総会を開催し、可能なら幹事会を中心に種々の活動を企画する予定です。参画型で、ご協力をお願い致します。

今回の岐阜支部設立に際しては、全学同窓会事務局をはじめとして、大変多くの人たちの協力を得ました。ここに深謝致します。

第3回名古屋大学同窓会サミット報告

Report on the 3rd Summit Meeting of NUAL Associations

名古屋大学同窓会サミット議長

名古屋大学全学同窓会副会長 伊藤 義人

1. はじめに

令和元年7月27日（土）の16時から、野依記念学術交流館で、第3回名古屋大学同窓会サミットが開催されました。当日は、台風6号が接近し、開催が危ぶまれました。結局、愛知県に、暴風警報は発令されず、雨もたいしたことはなく、無事開催できました。

名古屋大学同窓会サミットは、学部や研究科の部局同窓会だけでなく、独立して活動している学科や専攻の同窓会の会長および事務局長（幹事長）などの役員が参加し、情報共有と共通課題について議論する会です。松尾総長、木村理事、上月理事・事務局長の大学役員にもご出席いただき、全学同窓会の役員を含め総勢42名でした。今回、初参加の方は約半数の22名でした。

名古屋大学には、現在31の部局等同窓会がありますが、今回は、22の同窓会が参加しました。事前アンケートには、全ての同窓会から回答がありました。

2. 第3回名古屋大学同窓会サミット

1) 挨拶と自己紹介

私が議長となって16時から同窓会サミットを開始しました。まず、岡田全学同窓会副会長から、次のような挨拶がありました。

同窓会サミットの皆が力を合わせて何かをすれば、同窓会も互いに交流が生じて力が出ると思う。同窓会が目指すべき名古屋大学のブランド価値を高め、より良い大学にしていくために先輩として何ができるかというのが課題ではないか。後輩が名古屋大学のブランド価値を向上させるために我々同窓生ができることは何かを考えながら、名古屋大学がますます良い大学になることを考えていくことが同窓会サミットの最大の目的と思っている。

次に、松尾総長の挨拶がありました。

本日は皆様それぞれの立場からさまざまなご意見をいただきたい。名古屋大学の最近の情報も提供し、名古屋大学のブランド価値をどのようにして高めていくのか、そして、教育研



岡田副会長



松尾総長

究を通じてどのようにして社会に貢献していくのか、この機会を通じて有意義な意見交換をしていただければと思う。

これらの挨拶の後、参加者一覧を見ながら、名前と所属だけの簡単な自己紹介を全員がしました。

2) 部局同窓会と全学同窓会の活動状況について

各話題の冒頭で、事前アンケート結果を私から報告して、それを基に議論をしました。

a) 新規会員の勧誘

会員制度については、「無条件で同窓会員としている（登録制度無）」が23同窓会、「卒業生・修了生のうち要件を満たした方のみを会員としている（登録制度有）」が8同窓会であり、要件としては会費納入が多い。新規会員の勧誘については、「勧誘活動を行っている」が15同窓会、「勧誘活動は行っていない」が16同窓会。

このアンケート報告の後、以下のような主な意見と議論がされた。

- ・キタン会は、5年前から新入生を入会させている。入会率を向上させたいので、できれば、全学の制度として大学として支援いただけるとありがたい。入学時に保護者へ配付する資料の中に入会案内を入れており、在学4年間で卒業後6年間の10年間分前払いで4万円としている。
- ・全学同窓会では、会費は徴収していない。支援会費として一口5,000円／年の寄附をお願いしているほか、入学時に活動協力金として入学生の保護者に一口1万円の寄附をお願いしており、毎年100名程度に協力いただいている。また、卒業時には、全学同窓会および同窓会カードについて案内しており、同窓会カードの加入・利用によるカード事業収入を大学支援につなげている。また、海外支部には卒業生の情報を提供している。
- ・学生会員には、同窓会から十分な支援をする必要がある。そうでないと、卒業後（修了後）に正会員になってくれない。

b) 会員間の情報共有

会報誌の発行については、「発行している」が18同窓会、「発行していない」が13同窓会、ホームページについては、「保有している」が24同窓会、「保有していない」が7同窓会。会員名簿の編集作業を外注しているのは6同窓会で、それ以外の同窓会は担当者が行っている。また、名古屋大学卒業生等電子名簿については、「利用している」が18同窓会、「利用していない」が13同窓会。会員向けの会員名簿を発行しているのは9同窓会と少ない。

会員への情報発信について、「発信している」が18同窓会、「発信していない」が13同窓会。会報誌やHPによる発信が多い。課題としては、名簿管理作業に係るマンパワー不足等が挙げられている。

以下のような議論があった。

・組織的な事務体制があり、会費徴収もしっかりと行っている同窓会、維持するのも大変な状況の同窓会とさまざまである。大学が一律に強制的に行うのは難しいと思うが、各一部局同窓会でどのようなアクティビティがあって入会を勧めているということを大学が共有して入会を勧めるというのがあるかと思う。名簿は把握できているということで、全学同窓会の目的が会員相互の親睦であるとともに、大学の振興に資するような活動をするという点で見ると、私立大学と比べて国公立大学の同窓会は、ここぞというときにパワーが弱い。国の科学技術基本政策においても同窓会をもっと活用するという方針が明確に出されている。

c) 大学や部局・学科との協同事業について

協同事業を「実施している」が18同窓会、「実施していない」が13同窓会。実施内容は卒業・入学パーティー、論文等の賞、奨学金等、同窓会によってさまざまな部局との協同事業が挙げられた。

3) 全学同窓会岐阜支部設立の報告

私から岐阜支部の設立総会について報告しました。6月29日(土)に岐阜市にあるホテルグランヴェール岐山で岐阜支部設立総会・交流会を開催し、約100名が出席しました。総会で支部内規及び支部役員が承認され、小笠原文雄氏が支部長に就任しました。交流会では、小笠原支部長の挨拶の後、松尾総長から、名古屋大学の情勢について、東海国立大学機構等の説明がありました。

4) 大学の現状(松尾総長)

松尾総長から、スライドを使って、東海国立大学機構などの最近の大学の状況を詳しく説明いただきました。

5) 名古屋大学基金(特定基金)の現状と今後の連携について

木村理事から、名古屋大学基金や特定基金について資料に基づき現状報告と今後の「GO NExT」について詳しい説明がありました。

アンケートにおいて、関連部局における名古屋大学基金の特定基金について、17同窓会から「設置している」と回答があり、うち15同窓会が関連部局の特定基金を支援していました。チラシの配付等による会員への寄附依頼のほか、特定基金へ寄附を行っている同窓会もありました。

以下のような意見交換がありました。

・名古屋大学の特定基金への寄附は税制上の優遇措置が適用される。また、株式による寄附の場合、従来はキャピタルゲインが寄附者に課税されていたが、税制改正により名古屋大学への寄附はキャピタルゲインが非課税になっている。

現金に限らず、さまざまな形で寄附をいただければと思う。
・高齢者が金融資産をかなり保有しているが、それをどのように社会に生かしていくかということが大学も見えていないのではないか。モチベーションが弱いと思う。自分の母校を良い大学にしたいというモチベーションを支援する必要がある。リターンとしてインセンティブを考える必要もあるのではないか。

6) 部局同窓会、全学同窓会および大学の今後の連携について

部局同窓会、全学同窓会および大学の今後の連携に関して、今後の連携のため、部局等同窓会の会長・幹事長等名簿を、取扱注意で提示している旨の説明を私からしました。

3. 交流会

場所を、豊田講堂横のシンポジオンに移して、17時50分から、立食形式で交流会が行われました。会費も全員からいただきました。

交流会の冒頭で、齋藤全学同窓会副会長の挨拶と乾杯が行われました。「最近、人生100年時代ということが急に言われている。健康寿命が必要であると特に言われており、さらに最近では、第三の寿命が大事と言われている。第三の寿命は、社会活動寿命である。本日の出席者は社会活動寿命の長い人ばかりだと思う。名古屋大学の同窓会のますますの発展と100年生きられることを祈念して乾杯したい。」

交流会としては初めての立食形式であり、名刺交換する人達もおり和やかな懇談が約40分間行われました。

その後の交流会の後半は、各同窓会の代表によって、1人2~3分で、各同窓会の主な課題などを話していただきました。皆さん真剣に話されるので、飲食をしながらですが、静かに聞くことができました。

その後、松尾総長のお話を聞き、最後に上月理事・事務局長に挨拶と一本締めで中締めをしていただきました。

4. おわりに

名古屋大学同窓会サミットも3回目となりやっとこなれた感じとなって、自由に意見を言える雰囲気になりました。各同窓会は、共通の課題もありますが、それぞれ固有の問題も多くあり、その差もよく分かるようになりました。



交流会での齋藤副会長

活躍する会員たち NUAL People in Action

「活躍する会員たち」では、同窓会会員の各界におけるご活躍ぶりを紹介しています。第32回は、大学院情報科学研究科で博士学位を取得され、計算社会科学でご活躍の高野雅典さん、経済学部を卒業され投資ファンドを通じた社会貢献でご活躍の川村治夫さんにお話いただきました。

NUAL People in Action introduces the activities of alumni in various sectors. In this 32nd installment, we hear from Dr. Masanori Takano, who received his doctorate from the Graduate School of Information Science and now works in the field of computational social science, and Mr. Haruo Kawamura, alumnus of the School of Economics who has been making social contributions through an investment fund.

たかの まさのり
高野 雅典さん



■略歴

2000年～2004年	会津大学コンピュータ理工学部
2004年～2006年	名古屋大学大学院情報科学研究科 博士前期課程
2006年～2009年	名古屋大学大学院情報科学研究科 博士後期課程
2006年～2009年	日本学術振興会特別研究員
2009年～2011年	株式会社 JSOL
2011年～現在	株式会社サイバーエージェント

学生時代の研究

私は情報科学研究科 複雑系科学専攻 博士前期／後期課程の5年間で人工生命・複雑系の研究室において「社会的相互作用・社会的知性の進化」というテーマに対してシミュレーション技術を使って研究をしていました。それは「仮想世界を作り、そこでの現象を観察する」という構成論的アプローチに基づくものです。博士後期課程修了後、システムインテグレータにてシステム開発、株式会社サイバーエージェントにて自社サービスの開発を経て、現在は同社の研究開発組織で自社の Web メディア・ゲームサービスのデータ分析と計算社会科学研究に従事しています。

Web メディア企業で計算社会科学の研究

現在、非常に多くのヒトが日常生活の一部として、ソーシャルネットワーキングサイト（SNS）など Web メディアサービスを利用しています。その結果、Web 社会では様々な社会現象が発生しています。それは Web 以外の社会現象にも大きな影響を与えるため、Web 社会を理解することは重要です（例えばフェイクニュースの流行）。当社で開発・運営しているメディアサービスに関しても同様のこと

が言えます。現象の理解・課題解決をするためには「Web 社会」の現象を科学的に研究すること、それをサポートするための技術開発が必要です。このようなビッグデータを利用した社会科学的研究は「計算社会科学」と呼ばれ、近年大きな盛り上がりを見せています。

私は大きく2つのパターンでこの分野の研究をしています。一つは自社サービス上で起こっていることの社会科学的視点からの理解です。これによってビジネスの現場で行われている統計分析だけでなく、社会科学的な視点から現象にアプローチすることでサービスの運営に新たな切り口を提供する事ができます。また膨大な先行研究の知見を有効活用することも期待できます。

例えば Web 上の様々なコミュニケーションプラットフォーム上では悩みを打ち明け（自己開示）、それについて相談にのる（ソーシャルサポート）という行動が見られます。インターネット掲示板 Reddit を始めいくつかのプラットフォームを対象に研究がされてきました。私達は当社のスマートフォンアプリ「ピグパーティ」（仮想世界でアバターを介してコミュニケーションをするアプリ）においても自己開示・ソーシャルサポートが存在すること、「アバ



計算社会科学の国際会議 IC2S2 での発表の様子

ターを使った感情表現」がそのようなコミュニケーションにとって重要であることを示しました（論文：M. Takano and T. Tsunoda, “Self-Disclosure of Bullied-Experiences and Social Support in Avatar Communication”, *Proceedings of the Thirteenth International Conference on Web and Social Media (ICWSM-2019)*, Vol. 13, No. 1, 2019）。これは楽しいコミュニケーションをユーザーに提供するサービスに「(なかなか打ち明けにくい) 悩みの相談の場」という新たな側面について定量的に示したものとと言えます。また最近では AbemaTV という当社の運営するインターネットテレビ局のニュース番組が「視聴者の政治知識や偏見」に与える影響について政治コミュニケーション・社会心理学の視点から研究をしています。

もう1つは理学的関心に基づく人間行動の理解です。Webでは実際にユーザーが自分の意志でサービスを利用し、サービスの仕組みの範囲内で任意のタイミングで任意の行動が可能であるため、理論的・実験的な先行研究のようにモデル化された環境よりも自由に振る舞うことができます。一方でサービスの仕組みにより調査研究が対象としている実社会よりはユーザーの行動は制限されるため、現実の社会よりも理解が容易です。それに加えて前述のような詳細な行動の履歴が記録されるため、Webサービスのビッグデータは理論・実験研究と調査観察研究を補間する強力な手段です。

理学的な動機に基づいた研究の1つとして、私は

対面のコミュニケーション、電話、メール、ソーシャルネットワーキングサービスのコミュニケーションデータを横断的に比較しました。研究に用いたデータは先行研究によって収集され公開されたものと当社メディアサービスのものです（このデータも公開しています）。結果、知人の数と平均的な仲の良さはベキ則に従ったトレードオフが存在すること、そのコミュニケーションツールの性質によってトレードオフの強さが変わり、それが社会関係の構造（狭く深い／広く浅い）を決めることを示しました（論文：M. Takano, “Two Types of Social Grooming Methods depending on the Trade-off between the Number and Strength of Social Relationships”, *Royal Society Open Science*, Vol. 5, Issue 8, 2018）。これはコミュニケーションツールを設計する上で、想定する社会構造（使われ方）によって考慮すべきパラメータを示したと言えます。

おわりに

このように私は現在、サイバーエージェントにて主に計算社会科学研究を行っています。シミュレーションが中心であった学生時代から実際の人間行動の分析と研究ツールは大きく変わりましたが、Webはある種のモデル化された仮想世界であり、そこでの複雑な系を観察し分析するという形は変わっておらず、研究のモチベーションや問題意識はそれほど変わっていないのかもしれません。

Webはごく最近にヒトが作った社会的空間であり、それがヒトの行動や社会に与える影響は未知なことがまだまだたくさんあります。またそれを知るためのデータは多くは企業が管理しており、多くはユーザーの個人情報を含むため、外部で研究に利用可能なデータは限定的です。したがって運営企業においても売上やユーザー体験の向上を狙った応用研究だけでなく、人やWeb社会の性質理解を目的とした基礎的／理学的動機の研究を進め、その知見を論文として公開することが重要であると考えています。

かわむら はるお
川村 治夫さん



■略歴

1957年12月 名古屋市生まれ
1980年3月 名古屋大学経済学部卒業
1980年4月 東京銀行（現三菱UFJ銀行）入行
1985年5月 ペンシルバニア大学ウォートン・スクール経営大学院修了
1987年12月 ゴールドマン・サックス証券会社入社
1998年11月 同社マネージング・ディレクター就任
2001年10月 モルガン・スタンレー証券会社にマネージング・ディレクターとして入社
2003年3月 独立して、投資会社キャス・キャピタル株式会社を設立し、代表取締役に就任し、現在に至る

東京工業大学社会理工学研究科非常勤講師（2002-2015）、株式会社小宮コンサルタンツ 取締役（2003-現在に至る）（代表の小宮一慶氏は名古屋大学経済学部客員教授）、明治大学大学院会計専門職研究科特別講義講師（2005）、株式会社ブルボン 独立社外取締役（2007-現在に至る）、一般社団法人日本プライベート・エクイティ協会 理事（2015-現在に至る）、パナホーム株式会社 パナソニックへの統合の特別委員（2017）

投資ファンドを通しての社会貢献

1. 生い立ち・名古屋大学時代

川村家は尾張徳川家に仕えた武士の家系で、その本家の長男として東区で生まれました。子供のころの遊び場は徳川園、通った幼稚園は建中寺幼稚園（尾張徳川家ゆかりの浄土宗の寺）という生粋の名古屋人です。経済学部では当時一番厳しいといわれた飯田経夫教授のゼミに入れてもらいました。20歳ころまで「お気楽人生」だったので、方向転換をはかりたかったのではないかと、自己分析しております。

2. サラリーマン時代

大学卒業後は海外で仕事がしたいという気持ちが強く、東京銀行に入行しました。入行4-5年目にペンシルバニア大学ウォートン・スクールに留学してMBA（最終学期は優秀者リスト）を取得させていただきました。自由闊達な雰囲気でもとても働きやすい銀行でしたが、30代は「欧米の投資銀行、もしくは、コンサル会社で勝負したい」と考え、30歳の時にゴールドマン・サックスに転職しました。NY本社で10名を超える米国人パートナーに丸一日インタビューを受けて、くたくたになったのを今でも覚えております。ゴールドマン、モルガン・スタンレーの投資銀行部門で計15年ほど勤務しましたが、水がっていたのか、日本企業の大きなサイズのM&A

および資金調達のお手伝いことができました。

3. 独立し、投資ファンド運営会社

「キャス・キャピタル」を起業

私は根っからのリスクテイカーですが、独立して投資ファンドを起業する際には、流石に入念な準備を2年ほどしました。会社というものは、その設立目的・存在意義を明確にすべきです。キャス・キャピタルの目的は「強い会社をつくる」ということにつきます。

キャス・キャピタルの命名に関して一言。CASはCloud Above Slopeの頭文字をとったもので、司馬遼太郎作「坂の上の雲」の題名を自訳しました。東大阪の司馬遼太郎記念館にうかがい、関係者の方からお許しをいただきました。2003年のキャスの設立趣意書には、今から100年も前に日露戦争という大仕事に無我夢中でくびをつっこんでいった幸福な楽道家たち、秋山兄弟・正岡子規のように、私自身も志を同じくするパートナーたちと一緒に、時代・対象は異なるが、「強い会社をつくる」という目的に今後の20年を賭けてみたいという趣旨の記載があります。（<http://www.cascapital.com/07.html>）

投資ファンドは会社を買収して、その経営権を得て、その会社の経営をよりよくして、最終的には



ペンシルバニア大学ウォートン・スクール経営大学院卒業式（1985）

M&A もしくは IPO という手段で資金回収をします。敵対的買収は一切行わないことをポリシーに、弊社は創業から17年間に上場会社を含めて11社に投資実行をして、すでに8社に関して資金回収を完了しております。ここからは自慢ですが、資金回収をした8社は「全戦全勝」です。「全戦全勝」とは、投資時に比較して、資金回収時には全ての投資先が増収増益を達成しているという意味です。ちなみに最初の4社はリーマンショックの前の投資実行です。当然の帰結とも言えますが、お客様である機関投資家様にはご満足いただけるリターンを出していると自負しております。

17年間で、外食・食品・教育・人材派遣・介護・機械・化学・保険・医療・卸レンタル・サービス等の様々な会社への投資をしてまいりました。ここでは2010年に投資をしたマークテックの事例を簡単にご紹介させていただきます。

マークテックは東京の大森に本社をもつ、非破壊検査事業とマーケティング事業の2つの分野における総合メーカーです。リーマンショック後もかなり高い利益率をキープしている優良会社でしたが、(1) 後継者がいない (2) 海外現地法人の経営がうまくいっていないという二つの経営課題がありました。当時のオーナー社長といろいろ議論して、キャスが大株主になることにより、この二つの経営課題を一緒に力を合わせて解決しようということになりました。投資先の実情に合わせて、弊社は常勤の役員を、必要なだけ派遣します。マークテックの場合は、一時期には、海外を含む営業担当の社長・生産も担当で



マークテックの軽音楽部ロックライブにて（2013）

きる CFO・中国およびタイの現地法人の社長の計4名を常勤役員として送り、彼らが元オーナーと一緒に日々経営にあたりました。5年半の投資でしたが、赤字であった中国・タイを含めてすべての海外現地法人の黒字化を達成し、かつ、生産も担当できる CFO の西本圭吾氏が転籍して社長になることで後継者課題も解決いたしました。

有能な経営者を送り込むだけでは投資先の経営の本質的な解決にはなりません。キャスに所属する経営者が投資先から去ってしまえば、また元の状態になりかねません。マークテックでは執行役員制度を新設して、プロパー社員の中から将来マークテックの経営を担っていただける経営陣を厳選しました。今日のマークテックは西本氏と、私が「四天王」と呼んでいる執行役員制度を通して発掘された40代・50代の経営陣を中心に成り立っていると理解しております。(http://www.marktec.co.jp/)

4. 投資ファンドを通しての社会貢献

現在弊社は七号ファンドの資金調達をしており、私自身もこれから10年はファンドのキーパーソンとしてのコミットをしております。七号ファンドはサイズも大きくなっているため、7-8社程度の投資を見込んでおります。ファンド投資を通して強い会社をつくり、少しでも社会貢献ができればよいと考えております。最後にこのような活動ができるのも、名古屋大学時代に飯田先生に「どんどん海外に」とご指導いただいたおかげとたいへん感謝しております。

大学支援事業目録贈呈

平成31年4月18日（木）、2019年度第1回幹事会において、全学同窓会大学支援事業（平成30年度第2回）採択者に目録が贈呈されました。

今回は、12件の応募から、表の5件が採択されました。

事業の内容は、実施後に本誌で紹介され、全学同窓会 HP でも公開されます。

また、これまでに採択した事業を全学同窓会 HP で公開しています。



採択された事業代表者の方々

平成30年度第2回 採択事業

所属・職名等	申請者	事業名
教育発達科学研究科長	植田 健男	名古屋大学教育学部創設70周年記念行事の開催 (記念式典、記念講演、公開シンポジウム、記念祝賀会)
工学部化学生命工学科2年 (第60回名大祭実行委員会委員長)	神木 遼也	第60回名大祭
学生相談総合センター教授	鈴木 健一	「チーム保護者&大学学生支援センターで名大生を支え育てよう」
経済学研究科長	福澤 直樹	名古屋大学経済学部／経済学研究科 創立百周年記念事業 国際経済政策研究センター国際シンポジウム「持続可能な発展のためのイノベーション」
国際開発研究科長	山形 英郎	大学院国際開発研究科同窓会タイ支部の立ち上げおよび「国際開発フォーラム in タイ」の開催

支部・部局便り News from the Alumni Associations of Different Schools and Regions

部局や地域ごとの同窓会から寄せていただいた便りを掲載します。それぞれが全学同窓会と連携しながら活動しています。

Here you can find announcements and news from alumni associations of schools and/or regions. These associations and NUAL are cooperating with each other to everyone's benefit.

関東支部 NUAL Kanto Branch

【幹事会】

7月23日（火）に、学士会館において、幹事会を開催しました。

- ・幹事会では、和田壽弘全学同窓会代表幹事にお越しいただき、「最近の名古屋大学と全学同窓会の状況」についてご紹介をいただきました。
- ・昨年度に引き続き、今年度も講演・交流会を開催することを決定しました。
- ・学士会との連携については、会員増強の一環として、3月25日（月）の名大卒業式において入会の勧誘を行い、49名の方に入会いただきました。

【令和元年度関東支部講演・交流会】

開催日：2020年2月8日（土） 14：30～18：30（予定）

場 所：学士会館202号室（東京都千代田区神田錦町）
1時間の講演の後、交流会を行います。

大学から松尾総長、和田代表幹事にご出席いただく予定です。

* 詳細情報につきましては、今後、HP、メール等でお知らせいたします。

させていただきます。

■連絡先 関東支部事務局長 岸 徹

E-mail kishi8678tr@ra2.so-net.ne.jp

名古屋大学遠州会 NUAL Ensyu Branch

名古屋大学全学同窓会遠州会支部活動報告

名古屋大学遠州会同窓会は、第24回同窓会を令和元年6月8日（土）18時から、浜松市内のホテルにて、来賓に松尾清一総長と全学同窓会の伊藤義人副会長、和田壽弘代表幹事をお迎えし、会員65名が出席して開催しました。最初に出席者全員の集合写真を撮影し、南方陽会長の挨拶の後、工学部 OB の光産業創成大学院大学 瀧口義浩学長により、「光産業創成大学院大学が進めている光を使った新しい産業創り」と題して講演会を実施しました。引き続き松尾総長が、「新しい国立大学像を目指す名古屋大学の挑戦」というタイトルで名古屋大学の現況や取巻く環境、今後向かっていく方向についてスライド資料を投影されながら詳しくお話をされました。伊藤副会長からは岐阜



集合写真 (S50卒以前)



集合写真 (S51卒以降)

支部設立のお知らせを、和田代表幹事からは全学同窓会が本年冬に予定している講演会へのお誘いや企業内同窓会への参加についてご紹介がありました。その後、野村副会長の乾杯発声で懇親会をスタートし1年ぶりの再会を楽しみました。会の中盤では用意した名大オリジナル商品や幹事提供の品物を景品としたビンゴゲームを実施し全員大いに盛り上がり、大変和やかな雰囲気の中、黒木副会長の中締めで20時40分に終了しました。

■連絡先 名大遠州会同窓会事務局 鈴木鉄郎
E-mail enshuszk@yahoo.co.jp

関西支部 NUAL Kansai Branch

全学同窓会関西支部第14回総会開催

2019年5月18日(土) 14時から、名古屋大学全学同窓

会関西支部第14回総会が、大阪市内の中央電気倶楽部において開催され、約70名が出席しました。

総会は、関電プラント(株)相談役藤井眞澄全学同窓会関西支部長の開会挨拶で始まり、その後、吉田守孝氏(トヨタ自動車株式会社副社長、同社TNGA推進部統括(S55年名古屋大学工学部機械科卒))の講演会が行われました。

吉田氏の講演では、「自動車の変革と未来～100年に一度の大変革時代～」と題し、自動運転をはじめとするこれからのクルマづくりについて、技術面を中心に映像も交えて大変分かりやすくお話いただきました。会員にとって新鮮な刺激にあふれ、大変好評を博すことができました。

休憩をはさんだ後、松尾総長から、「NU MIRAIプロジェクト「創立80周年、創基150周年、東海国立大学機構設立を機に名古屋大学の飛躍的發展を!」」と題し、大学の情勢や今後の目標について報告がありました。引き続き、和田壽弘全学同窓会代表幹事から、全学同窓会の昨年度の活動、今年度の事業計画等について報告がありました。

総会・講演会後の懇親会には、45名が参加しました。部局支部同窓会の代表者から近況報告があり、大変和やかなうちに終了しました。



吉田守孝氏の講演

■連絡先 関西支部事務局 脇田喜智夫
御所南法律事務所 TEL 075-253-0777
E-mail office@goshominami.jp

同窓会支援事業 NUAL Support Project

全学同窓会の活動理念に沿った名古屋大学の活動(学生活動、就職支援事業、本部・部局による行事・寄附講義等)を支援するため、公募型の大学支援事業を実施しています。

NUAL has an open invitation type support project for Nagoya University's activities (including student activities, employment support service, events and lectures) in harmony with the activity principle of the association.

就サポ presents 学生×卒業生交流会 ～これからのキャリアについて考えよう～

申請代表者: 船津静代
(学生相談総合センター 就職相談部門 准教授)

就サポ^(※) OBOGは全学同窓会の支援を受け、社会人と

在学生の交流企画をホームカミングデイ内で実施し、全学的な若手同窓生集団を形成する礎を築きました。

同窓会理念の通り、同窓生同士の専門分野を越えた交流が従来にもまして重要です。しかし、従来の同窓会活動は各部局に限定されたものが多いことが課題意識としてありました。そこで就サポ OBOGは、全学的な若手同窓生集団の

形成を目的とする企画が必要と考え、アイデアソンを実施しました。アイデアソンは新しいアイデア発想法の1つで、そのプロセス上で多様なメンバーと密な議論や交流が可能です。そのため今回の多様性を含む集団形成に大いに役立つと考えました。

成果として、事後のアンケート結果より企画満足度82%、継続的な企画参加希望は87%となり、「3.5時間では足りない」との意見も多く聞かれました。密な交流の機会が提供できた結果だと思われます。また全学同窓会から支援頂いた結果、交通費支給によりファシリテータを担当する全国の社会人が本学に集いやすくなったこと、備品購入により企画のクオリティが向上したことも満足度向上の大きな要因となりました。本企画により、若手卒業生に対しては、在學生や本学卒業生との交流が本学への帰属意識を高め、在學生に対しては、卒業生が集う有意義な機会としてホームカミングデイを認識させる絶好の機会となりました。

最後に、本企画を実施するにあたり、参加者満足度は高い一方で、卒業生参加者の募集に苦労した事実があります。そのため若手卒業生が、第一歩として本学に集いたいと思わせる企画立案が重要と考えます。「集いやすい仕組み」と「集いたくなる企画」を念頭に、今後も若手同窓生集団の形成に尽力します。

(※) 就サポ：

名古屋大学学生総合センター公認の就職支援団体「就活サポーター」の略称であり、進路の決定している学生（サポーター）が、自らの就職活動の経験を活かして、これから就職活動を始める、あるいは就職活動を行っている学生（プレイヤー）を支援しています。

プレゼンテーションアワー

～卒業生・留学生を含む名古屋大学生の異なる分野
間交流促進のための国際プレゼンテーション大会～

申請代表者：嶋田耕太郎
(国際開発研究科国際開発協力専攻修士2年)

プレゼンテーションアワーは、①学生の学際的な交流、②国内学生・国際学生・教職員の交流など、キャンパス内で分野を超えたアカデミックな交流の場の創出を目指す国際プレゼンテーション大会です。各学期1回の頻度で、これまで5年間途切れることなく10回開催することができました。毎回5、6人の一般学生・留学生・学外のゲストが発表者として、英語または日本語でプレゼンテーションを行います。プレゼンテーション

のテーマは研究内容の紹介、自国の紹介、趣味、学外での活動の紹介など様々です。毎回50人程度の参加者が集まり、休憩時間や大会後の懇親会の時間には、参加者と発表者が入り混じっての対話や交流が生まれています。

2018年度は全学同窓会からの支援を受けることができたため、卒業生との交流を目標とした新しい取り組みを実施しました。春学期には、4名の現役学生と、1名のアメリカの研究機関に勤める卒業生に、発表者を務めていただきました。会場と在米の卒業生をテレビ電話でつないで、リアルタイムでプレゼンテーションを行っていただき、参加者からの質問に対応していただきました。秋学期には、初の試みとして日曜日に大会を行い、8名の卒業生を発表者として招きました。発展途上国の支援機関で国際的に活躍する方や、自らの目標を実現するために取って大企業から転職してチャレンジし続ける方、本学への交換留学がきっかけとなり日本企業で働いている元留学生の方など、幅広い分野で活躍する先輩方のお話をお伺いすることができました。また卒業生発表者だけでなく、多くの卒業生が観客としても参加してくださいました。在學生や教職員だけでなく卒業生の参加者からも、プレゼンテーションや在學生から良い刺激を受けたとの評価を得ることができました。今後も本大学に関係する、様々な領域で活躍する人々をつなぐ活動を引き続き開催していきたいです。



聴衆からの質問に発表者が対応している様子

文学部創立70周年記念事業

申請代表者：佐久間淳一
(人文学研究科・研究科長(当時))

文学部は、2018年、1948（昭和23）年の創立以来、70周年の節目の年を迎えました。文学部ではこれを記念し、これまでの文学部の歩みを振り返り、これからの文学部のあり方を考える機会として、創立70周年事業を実施することになりましたが、その事業の一部として、10月20日（土）の第14回名古屋大学ホームカミングデイの当日、豊田講堂シンポジウムホールにおいて、記念講演会とシンポジウム、および関連展示を行いました。ホームカミングデイ当日に開催したのは、創立70周年

ということで、卒業生にも大勢集まってもらいたかったということがありますが、幸い、全学同窓会にもこの事業の趣旨にご賛同いただき、ご支援を賜ることができました。この場を借りて御礼申し上げます。

午前中の記念講演会では、詩人の伊藤比呂美氏を講師にお招きし、「いつか死ぬ、それまで生きる」と題して、人生100年時代の人の生き方についてお話しいただくとともに、来場者の皆さんから寄せられた悩み事に対するライブ人生相談も行いました。また、コメンテーターとして、国際日本文化研究センターから坪井秀人氏、名古屋大学から金山弥平氏、榊原千鶴氏にご参加いただき、人文学ならではの哲学的、文学的視点で、講師の伊藤比呂美氏と意見交換を行いました。シンポジウムホールが満席になるほど、大勢の方にご来場いただき、大変ありがたく存じます。午後のシンポジウムでは、「LGBTQフレンドリーな大学とは?」と題して、広島修道大学の河口和也氏、関西大学の井谷聡子氏、三重大学の劉 靈均氏にお話しいただくとともに、来場者の皆様も含め、活発な意見交換を行いました。こちら、近年大いに注目を集め、議論が沸騰している話題ですが、人間とは何か、人間はどう生きるべきかを考える文学部の70周年記念企画としては、まさにうってつけだったのではないかと思います。展示企画も併せ、ホームカミングデイ当日のイベントは盛況のうちに終了することができました。



シンポジウム風景

平成30年度 名古屋大学ホームカミングデイ部局行事 「同窓生在籍企業の紹介」の開催

申請代表者：川北一人
(生命農学研究科長(当時))

この度、名古屋大学全学同窓会からの支援を得て、平成30年度名古屋大学ホームカミングデイ部局行事として、「農学部同窓会評議員会」、「同窓生の在籍企業の紹介」、「同窓会全体説明、研究科の現況報告」、「同窓会懇親会」を初めて開催しました。

今回のこれらの企画を通じて、同窓生・在学生・留学生・現職教職員との情報交換が進み、農学部・生命農学研究科及び在学生並びに留学生と農学部・生命農学研究科同窓会及び同窓生との緊密な連携構築のきっかけ作りができたと自負しております。

「農学部同窓会評議員会」では約60名の同窓生に参加いただき、同窓会の在り方、同窓会と学部・研究科の連携について、忌憚のない助言をいただきました。

また、「同窓生の在籍企業の紹介」においては、12社の参加企業による紹介を、35名ほどの在学生が熱心に質問を行い、活発な交流が行われました。

さらに、「同窓会懇親会」においては、農学部同窓会評議員の皆様をはじめ、「同窓生の在籍企業の紹介」への参加企業同窓生及び在学生の皆様、現職教職員総勢約50名が参加し、旧交を温めると共に、今後の学部・研究科と同窓会の連携についての意見交換が行われました。

来年以降は、農学部同窓会の総会及び各研究室同窓会もホームカミングデイと同日開催することを予定しており、農学部同窓会と農学部・生命農学研究科の更なる連携強化の取り組みを行っていく予定です。



同窓生在籍企業紹介

ダン・ホアン・オワイン司法副大臣講演会

申請代表者：國分典子
(法政国際教育協力研究センター・センター長(当時))

日本とベトナムは、1973年に外交関係を樹立し、2018年に日越外交関係樹立45周年を迎えました。近年では、高い経済成長率を誇るベトナムに進出する日本企業が年々増加しており、両国の経済的連携が強化されています。ベトナムの投資環境を改善することを目的とした日越共同イニシアティブの設置や日越経済連携協定の締結など、両国政府も経済交流の活性化に向けた施策を行っています。

名古屋大学は、1999年より、アジア諸国の市場経済移行国に対する法整備支援事業の一環として、留学生の受け入

れを通じてアジア諸国における法律家育成に取り組んできました。ベトナムの本研究科修士からは、2016年4月にはレ・タイン・ロン氏が司法大臣に、2018年4月にはダン・ホアン・オワイン氏が司法副大臣に就任されました。同氏は、本学留学前からベトナム司法省で勤務されており、帰国後は、司法省国際協力局副局長、同局長などを歴任され、ベトナム司法省の国際活動の中核を担ってこられました。

この度、オワイン副大臣が名古屋大学より国際交流貢献顕彰が授与されることとなり、あわせて特別講演会「投資・ビジネス環境整備に向けたベトナムにおける法的取り組み」を開催し、オワイン副大臣にはベトナムのビジネス・投資分野において、現在ベトナムが抱えている法的課題、それに対するベトナム政府の取り組み、日本との法協力の重要性についてお話しいただきました。

当日は、企業・大学関係者をはじめとして、100名を超える参加者がありました。ベトナムは、1980年代から開放路線に転換し、市場経済化に向けた法整備に取り組んでいます。日本政府も1990年代半ばから、法整備支援事業を展開してきました。オワイン副大臣は、特に、ベトナムの経済発展に日本の法整備支援が果たした役割の重要性を強調され、とりわけ名古屋大学をはじめとする日本の大学の人材育成による貢献について言及されました。

本講演会は、名古屋大学全学同窓会から支援をいただきました。また、名古屋大学法学部同窓会と共催し、同会理事長の水野耕太郎・東邦ガス顧問、同会副理事長の杉浦一孝・名古屋大学名誉教授にもご参加いただき、講演会後に開催した午餐会には、村瀬幸雄・十六銀行頭取など活躍されている同窓生にもご参加いただき、オワイン副大臣と法学部同窓生との懇談の場も設けました。さらに、本講演会は、日本貿易振興機構（ジェトロ）名古屋貿易情報センターおよび一般社団法人中部経済連合会にもご後援いただき、ベトナムに関



講演会の様子

心を寄せている多数の企業から参加者があり、盛況な講演会となりました。なお、講演会の記録は、CALE Booklet No. 5「ベトナムの社会・経済成長—司法の役割と日本・ベトナム法律協力の貢献」として発行し、以下 CALE ウェブサイトにて閲覧可能です。

http://cale.law.nagoya-u.ac.jp/_userdata/CALE%20Booklet%20No.%205.pdf

第60回名大祭

申請代表者：神木遼也

(第60回名大祭実行委員会 委員長・工学部化学生命工学科3年)

第60回名大祭は6月13日（木）午後から16日（日）の3.5日間行われ、特に土日は雨風が強い中、今年度も多くの方にご来場いただきました。

名大祭では演劇・合唱・絵画・バンド演奏といった学内の部活・サークルの発表など、150以上の企画が行われました。ステージでの企画から、来場者参加型の企画に至るまでの全企画で出演者と来場者が一緒に楽しみ、お祭りの非日常的な雰囲気を作り出すことができました。これらのお祭りの企画に加え、名古屋大学という総合大学の特色を生かした学術企画も多く行われました。「研究公開」では、学内の研究室等がセミナーや研究室見学などを行い、世代を問わず多くの来場者の方に普段見られない研究への興味を示していただきました。また、「学術企画」では、小学生を対象として、科学実験を取り入れた謎解きゲームをしてもらうことで、科学への興味を示してもらえました。

今年度の名大祭が60回目であるという節目を記念して、マスコットキャラクター「ふりゃあ」の着ぐるみを全学同窓会からの支援をいただき制作いたしました。「ふりゃあ」は、5月末に行われたプレ企画「仮装行列」に参加し、名大祭の広報に貢献することができたと考えております。名大祭期間中には、大学内各所に登場して来場者に触れ合うグリーティングタイムを設けたり、各企画に登場することで名大祭の盛り上がりの一助となりました。また、7月13日（土）に行われた伊勝学区夏祭りに参加し、夏祭りの盛り上がりにも貢献するとともに、日ごろお世話になっている大学周辺地域への還元につながりました。このような取り組みを通じて、地域還元を積極的に行っていきたいと考えております。また、10月に行われるホームカミングデーと同時開催する第43回秋草祭にも「ふりゃあ」を参加させることで、秋草祭だけではなく、ホームカミングデー全体の盛り上がりにも貢献したいと考えております。

名大祭は60回の節目を迎えましたが、来年度以降も学生自治の祭典という理念のもと、名大祭をさらに盛り上げていくために実行委員一同尽力してまいります。最後になりましたが、名大祭開催にあたり支援事業で採択していただきました全学同窓会の皆様をはじめ、ご協力いただきましたすべての皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。



伊勝学区夏祭りに参加した際の写真

■同窓会・大学行事カレンダー

全学同窓会、部局同窓会、及び、大学に関する行事が下記のとおり開催されます。
詳細は、全学同窓会ホームページ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/> をご覧下さい。

○関東支部

1) 令和元年度関東支部講演・交流会

開催日：2020年2月8日（土） 14：30～18：30（予定）
場 所：学士会館 202号室（東京都千代田区神田錦町）
1時間の講演会の後、交流会を行います。
*詳細情報につきましては、今後、HP、メール等でお知らせいたします。
連絡先：関東支部事務局長 岸 徹
E-mail：kishi8678tr@ra2.so-net.ne.jp

2) 東京キタン会 豊洲市場&東京オリンピック会場見学

2018年10月に開場した、築地の1.7倍の敷地面積を誇る豊洲市場の見どころをガイド付きで見学します。市場見学の後は2020年東京オリンピック会場を視察クルーズします。
日 時：令和元年（2019年）11月9日（土） 午前9時45分集合
集合場所：東京駅丸の内口 丸ビル前
URL：https://tokyo-kitankai.com/
連絡先：東京キタン会事務局 宮坂典男
電話090-7556-1710 E-mail：info@tokyo-kitankai.com

3) 令和2年度名大鏡友会東日本支部総会・懇親会

講演会は本学科生命分子工学専攻の本多裕之教授の予定。
詳細は次回のニューズレターに載せます。
日 時：令和2年6月6日（土） 13時より
場 所：学士会館 210号室
連絡先：新井清隆 Email：araikyt0217@yahoo.co.jp

4) 第22回農学部同窓会関東支部総会

日 時：2019年（令和元年）11月30日（土） 午後1：30～5：30
場 所：学士会館302号室 東京都千代田区神田錦町3丁目28番
講 演：1 「驚きの性の進化史」松田洋一さん
（名大大学院生命農学研究科教授、S57畜D）
2 「世界の紅茶とその試飲」三浦宣安さん
（三井農林（株）茶技術顧問、S50農化）
☆松田さんは2018年毎日出版文化賞受賞
☆三浦さんから紅茶のお土産提供
懇親会：乾杯、学生歌斉唱、懇談など
参加費：6,000円（30歳未満は3,000円）
連絡先：支部長石川靖文
E-mail alum-kan@agr.nagoya-u.ac.jp
詳 細：支部 HP
<http://www.nua-alumkanto.sakura.ne.jp/>

○名大遠州会

名大遠州会第25回同窓会・第13回総会

日 時：2020年6月13日（土） 18：00～
場 所：オークラアクティシティホテル浜松
連絡先：名大遠州会同窓会事務局長 鈴木鉄郎
E-mail：enshuszk@yahoo.co.jp

○関西支部

1) 関西支部第15回総会、懇親会

関西支部では、下記の日程で第15回総会、懇親会を開催いた

します。大学から松尾総長、和田代表幹事にもご出席いただきます。多くの会員の皆さまのご参加をお待ちいたしております。

日 時：2020年（令和2年）5月23日（土） 14：00～19：00

場 所：中央電気倶楽部

住 所：大阪市北区堂島浜2-1-25 TEL：06-6345-6351

ご挨拶：藤井真澄（名古屋大学全学同窓会関西支部長）

▼講演会（5階大ホール）

講演者：未定

題目：未定

▼総会（5階大ホール）

和田壽弘（名古屋大学全学同窓会代表幹事）

題目：全学同窓会活動報告

松尾清一（名古屋大学総長）

題目：未定

▼懇親会（3階大食堂）立食形式（予定）

連絡先：関西支部事務局長：脇田喜智夫

（御所南法律事務所 TEL075-253-0777）

E-mail：office@goshominami.jp

関西在住会員の皆さまには、追って講演内容、参加費等の詳細を、個別にご案内いたします。また、全学同窓会ホームページでもお知らせいたしますので、ぜひご覧ください。

2) 第57回東山会関西支部 総会・講演会他

日 時：2019年11月9日（土） 14：00～18：00

場 所：大坂コロナホテル（JR 新大阪駅東）

講演会は、名古屋大学大学院工学研究科 機械システム専攻 奥村 大 教授を講師にお迎えいたします。

連絡先：東山会関西支部 庶務幹事 小川耕司

TEL：078-611-7133

E-mail：champogw@sky.plala.or.jp

3) 名古屋大学農学部同窓会関西支部（関西セコイア会）総会

毎年11月の第二土曜日に総会を開催いたしております。今年度は、新卒で新たに同窓会に入会された方を無料で招待することといたしております。

懇親会では、ご参加された全員の方に、近況をお話いただき、和気あいあいとした楽しい会になっております。是非、奮ってご参加ください。

なお、本年度の講演会では、昭和45年農芸化学卒の馬路泰藏様に、近年観光客が多く訪れる白川郷のお話をさせていただきます。

日 時：2019年（令和元年）11月9日（土） 10：00～15：00

場 所：中央電気倶楽部（大阪堂島）

行事予定：10：00～12：00 総会および講演会

12：00～15：00 懇親会

連絡先：事務局 寺前朋浩

〒669-1103 兵庫県西宮市生瀬東町37-23

E-mail：rikatomo@ares.eonet.ne.jp

○全学同窓会・学士会主催 講演会・夕食会

講演会

日時 2019年11月27日(水) 16:00～17:30 (開場15:30～)

場所 名古屋大学野依記念学術交流館2階
カンファレンスホール

講師 小笠原文雄氏

医療法人聖徳会 小笠原内科・岐阜在宅ケアクリニック理事長兼院長、
日本在宅ホスピス協会会長、名古屋大学全学同窓会岐阜支部長、
名古屋大学医学部特任准教授

演題 「なんとめでたいご臨終」



小笠原文雄氏

夕食会

日時 2019年11月27日(水) 18:00～20:00

場所 グリーンサロン東山
レストラン花の木

※詳細、お申し込みは全学同窓会 HP
(<http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>) に
てご確認ください。



事務局からのお知らせ From the NUAL Office

●支援会費のお願い Call for contributions

名古屋大学全学同窓会の活動は、皆様からの支援会費、寄附金に支えられています。支援会費は年度ごとのお支払いとなります。皆様のご協力をお願いします。

○支援会費 Supporting Fee

支援会員 Supporting member : 一口 5,000円

支援法人会員 Supporting institution : 一口 50,000円

○お支払い方法

郵便振替 Post Office Account 口座番号: 00860-8-113043

自動引落利用ご希望の方は、預金口座振替依頼書をお送りしますので、同窓会事務局にご連絡ください。

●住所等の登録・変更について NUAL member registration

全学同窓会では、名古屋大学と連携して、名古屋大学卒業生等電子名簿を整備し、大学及び同窓会からの情報発信を行っています。住所等の変更があった場合は、名古屋大学卒業生等電子名簿システム (<https://web-honbu04.jimu.nagoya-u.ac.jp/nual/>) の情報を更新いただきますようお願いいたします。

お問合せ先: 名古屋大学 Development Office (DO 室) 卒業生等電子名簿担当

052-747-6559 (9:00～16:00) sotugyoumeibo@adm.nagoya-u.ac.jp

「名古屋大学カード」の入会のご案内

～名古屋大学カードで繋がる大学支援～

全学同窓会は、同窓生と母校との連携強化・大学支援の充実を目指し、
「名古屋大学カード」を発行しており、利用金額の一部が同窓会に還元されます。

◆名古屋大学カード～ゴールド～

入会者は**17,000名**を超えています。



年会費永年無料!
ポイントがたまる!

家族会員様も1名様に限り無料。

家族会員様のご利用分もまとめて本会員様へ付与。

- 国内・海外旅行傷害保険付帯 最高3,000万円
- ショッピング保険 年間補償限度額 200万円
- 空港ラウンジサービス

入会方法について

① WEBからのご入会をご希望の方

名古屋大学全学同窓会 HP からお申込みください
⇒ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

② 入会申込書からのご入会をご希望の方

名古屋大学全学同窓会へ入会申込書をご請求ください
⇒ TEL/FAX: 052-783-1920 (受付: 9:00～17:00)

● カード優待サービスの企業を募集しています。

● ニュースレターへの企業広告を募集しています。

いずれも詳細は全学同窓会事務局へお問い合わせください。

編集後記

新たな国内支部の設立による体制の充実や、恒例となった同窓会サミットでの同窓会間での問題意識の共有など、名古屋大学に関連する同窓会の将来に関わる内容となりました。また、支援事業の様々な場面での活躍もご報告いただき、充実した内容となりました。多くの卒業生の皆様の変わらぬご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

(全学同窓会広報委員会)

NUAL Newsletter No.32 令和元(2019)年10月発行

Nagoya University Alumni Association

NUAL 名古屋大学全学同窓会

〒464-8601 名古屋市中種区不老町 TEL/FAX 052-783-1920

E-mail nual-jimu@adm.nagoya-u.ac.jp

ホームページ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

編集: 名古屋大学全学同窓会広報委員会